

インドネシア研究懇話会(カパル)
第2回研究大会/オンライン開催大会
2020年11月29日(日)

運営委員会報告

加藤 剛

カパル共同代表・責任者

ウェブサイトの『カパル航海録』
「運営方針・運営組織・来年時計画2018/12/16 PDF」
以降の状況について

報告内容

- 運営委員会体制について
 - 現在までの運営委員会の交代
 - 2021年度の運営委員会体制
- 運営委員会会議等と主要な検討・決定事項
- 第1回研究大会(2018・12・16)以降の新たな動き
- 第2回研究大会と第3回研究大会について

- 林田秀樹・会計担当責任者:2018年度、2019年度会計決算報告(運営委員会報告に続いて報告)

* 2020年度の会計決算報告は2021年のカパル研究大会時に行う。

運営委員会体制について

現在までの運営委員会の交代

運営委員会体制 1

2019年5月1日現在

代表	* 加藤剛(京都大名誉教授)、倉沢愛子(慶応大名誉教授)
総務	* 菅原由美(大阪大)、山口元樹(東洋文庫)
会計	北村由美(京都大)、合地幸子(東洋大)、* 林田秀樹(同志社大)、 間瀬朋子(南山大)
大会プログラム担当	* 岡本正明(京都大)、小野林太郎(民博)、笹岡正俊(北海道大)、 Jafar Suryomenggolo(政策研究大学院)、津田浩司(東京大)、山口 裕子(北九州市大)
大会会場担当	太田淳(慶応大)、* 長津一史(東洋大)
情報担当	太田淳(大会会場担当と兼任)、* 金子正徳(人間文化研究機構)、 森下明子(立命館大)
ウェブサイト担当	* 高地薫(神田外大)、見市 建(早稲田大)

- 第1回研究大会翌日の2018年12月17日 発足;その後、「情報・ウェブサイト担当」を「情報担当」と「ウェブサイト担当」に分離、いくつかの担当で委員を追加。
- * :各担当の責任者。
- 斜体人名: 2018年12月17日発足以降の新任委員。
- **選任方法**:カパル設立時の世話人会メンバーを中心に所属組織・ジェンダ・世代などに一定の配慮をし、担当責任者の意見を聞きつつ加藤が人選、追認を求めた。⁴

運営委員会体制 2

2019年10月24日再編・発足

代表	* 加藤剛(京都大名誉教授)、倉沢愛子(慶応大名誉教授)
総務	* 菅原由美(大阪大)、山口元樹(東洋文庫)
会計	北村由美(京都大)、合地幸子(東洋大)、* 林田秀樹(同志社大)、 間瀬朋子(南山大)
大会プログラム担当	小野林太郎(民博)、笹岡正俊(北海道大)、* 津田浩司(東京大)、 山口裕子(北九州市大)
大会会場担当	太田淳(慶応大)、* 長津一史(東洋大)
情報担当	太田淳(大会会場担当と兼任)、* 金子正徳(人間文化研究機構)、 森下明子(立命館大)
ウェブサイト担当	* 高地薫(神田外大)、見市 建(早稲田大)

- 個人的事情により岡本正明とJafar Suryomenggolo(政策研究大学院)が運営委員(両名とも大会プログラム担当)を退任、大会プログラム担当の責任者には津田浩司が就いた。他は「運営委員会体制 1」と変わらず。
- * :各担当の責任者。
- **選任方法**:「運営委員会体制 1」を参照。

運営委員会体制 3

2020年4月7日発足

代表	* 加藤剛(京都大名誉教授)、倉沢愛子(慶応大名誉教授)
総務	* 菅原由美(大阪大)、森田良成(桃山学院大)
会計	小野林太郎(民博)、北村由美(京都大)、合地幸子(東洋大)、 * 林田秀樹(同志社大)、間瀬朋子(南山大)
大会プログラム担当	* 太田淳(慶応大)、鏡味治也(金沢大名誉教授)、佐藤百合(アジア経済研)、中谷潤子(大阪産大)、伏木香織(大正大)、山口元樹(京都大)
大会会場担当	小泉佑介(大阪市大・学振PD)、* 長津一史(東洋大)
情報担当	* 金子正徳(摂南大)、島上宗子(愛媛大)、森下明子(立命館大)
ウェブサイト担当	* 高地薫(神田外大)、見市 建(早稲田大)

- * :各担当の責任者。
- **選任方法**:2019年9月に加藤から「運営委員会体制 2」メンバーに新規運営委員候補の推薦を求め、候補者リストをもとに所属組織・ジェンダー・世代などのバランスに配慮して加藤が原案を作成、その原案と残り候補者氏名リストを3月28日運営委員会TV会議に提示して協議、決定。その後、若干の修正を経て4月7日に発足。
- 後述のように、この体制のもとでの会議は7月18日にオンラインで開催された。

2021年度の運営委員会体制

- 当初、各年10月～12月の間で開催される研究大会を区切りとし、年単位で運営委員会の交代を考えていた。しかし、研究大会前に新運営委員会体制を検討するための時間は少なく、2018年末の体制から拡大・再編された「運営委員会体制 1」も今年の「運営委員会体制 3」も、4月ないし5月に発足している。
- 今後は年度単位で運営委員会の交代を検討し、「年度」の呼称はこれまでの運営委員会にも適用する。
- 2021年度の運営委員会体制については、来年3月までに現運営委員会の会議をオンラインで開催し、それまでに加藤から委員会メンバーに運営委員候補の提出を求める。
- 提出された候補者のリストをもとに、必要に応じて各担当責任者と相談の上、加藤と倉沢が次期運営委員会の構成案を作成し、上記オンライン会議に提出して協議、決定する。
- 加藤と倉沢は2021年度末をもってカパル代表を退く意向を示しており、その意味で次期運営委員会は新代表の人選を検討する重要な役割を担う。

第1回大会以降の運営委員会等会議一覧

○:運営委員会会議

●:中止の運営委員会会議

◆:他の会議

○2019年4月21日運営委員会TV会議:Skype使用、京都大学と東洋大学に集合

●2019年10月12日運営委員会、於東洋大学;研究大会中止のため会議も中止

○2020年3月28日運営委員会オンライン会議: Cisco Webex使用、一部同志社大学と東洋大学に集合、一部自宅から参加

◆2020年6月7日オンラインWG会議: ZOOMにてオンラインで開催

○2020年7月18日運営委員会: ZOOMにてオンラインで開催

◆2020年10月4日拡大オンラインWG会議: ZOOMにてオンラインで開催

●2020年11月半ば頃に運営委員会オンライン会議開催を計画するも日程調整ができず、開催中止

追記: 上記以外に運営委員会・大会プログラム担当・拡大オンラインWGはそれぞれのMLにて連絡・協議し、運営委員会の他の担当分野でもメールにて意思疎通を図った。なお、カパルML・投稿情報欄受付・カパルML登録等受付・ご意見お問い合わせ受付と共に、前記3MLの管理者は菅原。

運営委員会会議等と主要な検討・決定事項 1

- 2019年4月21日運営委員会TV会議: Skype使用、京都大学と東洋大学に集合
 - 運営委員追加の提案: 情報・ウェブサイト、会計、大会プログラム各担当下の委員
 - 林田・会計担当責任者の報告
 - ◆第1回大会の作業経験に基づく次回に向けた提案。
 - ◆第1回大会の参加費・懇親会費・カンパと大会関係支出の報告(林田)。
 - 第2回研究大会について
 - ◆第1回大会が盛会だったことから2日にわたる開催とする。
 - ◆日程は本年10月12日・13日、東洋大学白山キャンパス、第1回大会の会場/部会の数(5)が多すぎたとの意見があり、第2回はその数を3に留める。
 - ◆アルバイトと懇親会用料理の発注先について。
 - ◆シンポジウムなどの企画案について。
 - 情報プラットフォームのブログ(岡本作成)からウェブサイトへの移行に伴う諸事項
 - ◆サーバー選択(高地)、銀行口座開設とサーバーレンタル契約の完了(林田)。
 - ◆ウェブサイト表紙、カテゴリー、コンテンツ等についての説明(高地・岡本・加藤)。
 - ◆高地が仮リアップしたウェブサイトを修正し改訂版をGW中にアップ予定(高地)。
 - ◆カパールMLのアドレスについて: kabar@kapal-indonesia-jepang.net に後日決定。
なお「カパール」は2018年夏前に懇話会のインドネシア語名称と共にJafarが考案。
 - 今後の検討課題
 - ◆次回大会の大会参加費と懇親会費の設定、一般と学生・院生の差異化について。
 - ◆大会参加費、懇親会費に欠損や余剰が出た場合の扱いについて。
 - ◆研究大会とは別に特別研究会の開催の検討。

運営委員会会議等と主要な検討・決定事項 2

- 2019年10月12日運営委員会、於東洋大学；研究大会中止のため会議も中止
 - この会議以前に加藤から運営委員会メンバーに次期委員候補者の推薦依頼をしており、そのリストを基に次の委員会構成について協議する予定が、次回会議に持ち越し
 - 事前配布の検討事項一覧で、大会関係アルバイトの時給額は開催校時給単価に準じ、昼食支給の有無は大会会場担当と会計担当の責任者の協議で決定することにした
 - その後の委員会MLで協議・決定したこと
 - ◆中止となった第2回大会を3月28日・29日に再設定。
 - ◆大会のための発表追加募集、新シンポの追加と新企画「弾丸プレゼン」の試行。
 - ◆情報・ウェブサイト担当の情報担当とウェブサイト担当への分離ならびに「運営委員会 1」の追認。
- 2020年3月28日運営委員会オンライン会議：Cisco Webex使用、一部同志社大学と東洋大学に集合、一部自宅から参加
 - 再度中止となった第2回研究大会の扱いと新規日程の絞り込み、後日11月28日・29日、東洋大学にて開催と決定
 - 加藤が2020年度運営委員会構成案を提示、協議ののち承認。候補者に対する就任可能性の打診とその結果による一部構成案の変更は加藤に一任
 - 新型コロナウイルスの伝染拡大状況の先行きが不透明であり、研究大会がオンライン開催となる可能性に備えて「オンライン研究会検討WG」（以後「オンラインWG」）を設置。メンバーは太田・加藤（座長）・金子（副座長）・高地・津田（運営委員ではないがZOOMに関する知見からWG参加を要請）・長津・森下

運営委員会会議等と主要な検討・決定事項 3

- 2020年6月7日オンラインWG会議:ZOOMにてオンラインで開催
 - 大会のオンライン開催におけるアプリの選択:ZOOMに決定
 - 技術的・マンパワー的にオンラインで適切な会場の数と発表の追加公募の妥当性:会場は3か所とし、3月大会発表者に辞退者があり追加公募は可能との判断
 - オンラインのみの開催か対面/オンサイトとのハイブリッドか:感染拡大の状況を見て後日決定
 - オンライン開催決定に際しての判断基準:公的基準(政府規制等)と「カパル基準」
 - オンライン開催用のマニュアル作成TFを設置:メンバーは金子(ヘッド)、津田、長津、伏木(文化人類学会オンライン大会の座長経験者)、必要に応じて太田が参加
 - 「カパル基準」を検討し、オンライン開催にするかどうかを判断するために拡大オンライン研究会検討WG(以後「拡大オンラインWG」)を設置:メンバーは、前記オンラインWGに菅原(総務担当責任者)と林田(会計担当責任者)が参加、他に後日の決定としてプログラム担当委員の山口と伏木が参加。オンラインWGは拡大オンラインWGに発展吸収
 - 拡大オンラインWGには運営委員会の担当責任者の全てが参加することになり、このWGでオンライン開催にするかどうかを判断し、運営委員会に追認を求める
 - 拡大オンラインWG会議を9月末ないし10月初旬に開催、遅くとも10月10日までにオンライン開催に関する判断を下す
 - 今後オンライン発表やオンライン大会参加をどう位置づけるかについては、しかるべき条件をつけて認めるなどの検討が必要とされる

運営委員会会議等と主要な検討・決定事項 4

- 2020年7月18日運営委員会: ZOOMにてオンラインで開催
 - 2020年6月7日オンラインWG会議での議論・決定の報告
 - 3月大会発表者に辞退者があり会場の余裕もあることから追加発表募集を行う
 - 新型コロナの将来的影響が不透明なため中止となった3月大会の追加シンポに代わり、新たに新型コロナ関係のシンポを企画(登壇者の人選・交渉は加藤、佐藤)
 - 拡大オンラインWG設置の追認
 - オンライン開催の可能性もあるが、11月大会は原則として対面・オンサイトで行う前提で準備を進める: 東洋大学側の体制の説明(長津)
 - 11月開催大会の名称を「[再編]第2回研究大会」に決定
 - 上記大会に関わる「追加募集要領」の作成とウェブへのアップから始まり大会実施までの作業スケジュールの説明(太田)
 - シンポジウムに「外部」からスピーカーを依頼する場合の謝礼について
 - 大会のオンライン開催の判断やその場合の参加費・懇親会開催の有無、オンラインとリアルハイブリッド開催の如何については、拡大オンラインWG会議で検討
 - 投稿・情報欄の掲載予定報告(金子)、インタビューを軸とする新企画提案(加藤)
 - 運営委員会のメンバー交代方法や代表交代を含む将来的再編についての説明(加藤)と意見交換
 - 今後の研究大会におけるオンライン発表・オンライン大会参加の位置づけに関わる意見交換
 - 「カパル運営資金」を設け各年度の大会・カンパ等からの「余剰収入」はこれに組み込み、「赤字支出」がある場合はこの資金から補填することを、会議後のMLにて追認。

運営委員会会議等と主要な検討・決定事項 5

- 2020年10月4日拡大オンラインWG会議: ZOOMにてオンラインで開催
 - 11月大会をオンライン開催にするかどうかをめぐる協議
 - ◆ 新型コロナウイルスの拡大状況や政府の政策等についてのレビュー。
 - ◆ 東洋大学行動指針・授業状況・TOEIC実施状況・複数大教室確保等の報告(長津)。
 - ◆ 関連地域研究学会秋季研究大会の開催方式に関わる動向。
 - ◆ 運営委員会メンバーと11月大会発表者等に対して拡大オンラインWGが行った各自所属機関の国内出張取り扱いに関するアンケート結果の報告(金子)。
 - 以上を検討後、複数教室を参加者が行き来する対面での大会開催は、参加者の安全・安心を担保しつつ実行するのは不可能と判断
 - 上記結論を運営委員会に報告・追認を求め(加藤)、MLを通じて広く通知(太田)
 - 大会オンライン開催に向けての準備
 - ◆ 参加登録はGoogleフォームで行う(担当・菅原)。
 - ◆ ZOOM関係セキュリティ対策と参加登録者への関連事項連絡(担当・長津)。
 - ◆ 発表者にZOOM使用トレーニング希望の確認(太田)とその実施(金子・長津)。
 - ◆ 「[再編]研究大会参加申込等」の文案作成とウェブアップ(山口、太田、高地)。
 - ◆ オンライン・マニュアルの改訂の検討(取りまとめ・金子)。
 - ◆ キャンパを何らかの方法で募り(担当・林田)、大会関係経費などの支出に充当する。
 - ◆ ZOOMアカウント提供者(太田、高地、津田)の確認。
 - ◆ 「大会会場担当」に代わりオンライン大会実行TFの設置: メンバーは金子・菅原・津田、高地、長津(責任者)、伏木、必要に応じて太田が参加。
 - ◆ 「オンライン開催実施要領」の作成とオンライン懇親会のアレンジ等(担当・長津)。

第1回大会(2018・12・16)以降の新たな動き

- 運営委員会の設置と拡充

- 世話人会体制から運営委員会体制へ移行
- 運営委員の追加増員

- 情報発信面の工夫

- 情報プラットフォームをブログからウェブサイトに変更
- 情報担当をウェブサイト・情報担当から分離し情報担当委員を増員
- 情報欄からの情報発信の活性化
- 情報欄に新たに「インタビュー:先達・先輩と語る」を設置

- 研究大会をめぐる新たな試み

- 1日開催から2日間の開催へ
- 次世代(院生・若手)による発表を念頭に「弾丸プレゼン/Lightening Talk わたしの研究」を試行
- 新型コロナの影響があり、大会と懇親会のオンラインによる開催
◆追記:オンライン研究会検討WG(のちに拡大オンライン研究会検討WG)の設置とオンラインの将来的位置づけをめぐる検討の必要性を確認
- カンパの募集をyahoo運営の「Pass Market」により実施、11月16日に販売開始、20日夕刻に所定の100枚を完売・受付終了

第2回研究大会と第3回研究大会について

- カパール「第2回研究大会」をめぐって

- 2019年10月12日(土)・13日(日)、於・東洋大学白山キャンパス

- ◆台風19号、関東上陸予測のため開催中止。

- 再設定・カパール第2回研究大会

- ◆2020年3月28日(土)・29日(日)、於・東洋大学白山キャンパス。

- ◆発表の追加募集と新シンポジウム「〈インドネシア研究最前線〉を望む🚲」の追加。

- ◆新型コロナウイルスの感染拡大傾向を考慮し大会は中止。

- [再編]カパール第2回研究大会

- ◆2020年11月28日(土)・29日(日)、於・東洋大学白山キャンパス。

- ◆再設定大会の一部パネル・自由発表等に辞退があったことから発表を再追加募集、また新型コロナ感染の先行きの影響が不透明なため、前記シンポジウムを取り止めて新たなシンポジウム「新型コロナウイルスとインドネシア」を企画。

- ◆新型コロナウイルス感染収束の見通しがたたず、ZOOMを用いたオンライン開催に決定。

- 今次オンライン開催大会への参加登録状況について

- 総数228名(1日目201、2日目216)、内カパールML登録者165(他63)、懇親会79

- 参考:カパールML登録状況(2020・11・25現在):369名

- 第3回研究大会(2021年度)について

- 2021年11月ないし12月に同志社大学今出川キャンパスにて開催



これからもカパルをよろしくお願ひします。
次回は京都でお会ひしましょう。